

美しい森林づくり全国推進会議 岩手県気仙郡住田町が担う 美しい森林づくりへの活動

「美しい森林づくり全国推進会議」に参加している岩手県気仙郡住田町では
森林・林業日本一を目指し、様々な取組を行なっています。
そこで今回、住田町役場 産業振興課 森林林業日本一の町推進係の多田裕一氏に
おもな活動、今後の取組について伺いました。

森林・林業日本一を掲げる町。 その環境とシステム作りの取組

森林・林業日本一の町を目指す岩手県気仙郡住田町では、昭和五十二年の三月に当時単独の自治体としては、珍しかった「林業振興計画」を作成し、現在まで三十年以上にわたって、様々な取組を行ってきました。その目的は町の九〇%を占める豊富な森林資源を活用して、町の経済基盤の安定と林業の長期的な発展を図ること、そして木材の加工、生産、流通、さらに住宅生産、販売にいたる工程をシステム化して行うことです。住田町役場 産業振興課 森林林業日本一の町推進係長の多田裕一氏にお話を伺いました。

「私もが行っている最も大きな事業が、川下側からの林業の取組です。木の伐採や搬出などの川上側からの取組は多く行われていると思いますが、住田町では昭和五十七年に第三セクターの産直住宅として住田住宅産業株式会社を設立したのち、平成五年にはプレカット工場である、けせんプレカット事業協同組合を設置しました。その後、平成十年には集成材を供給する三陸木材高次加工協同組合を設立し、平成十四年にはラミナ製材を供給する協同組合さんりくランバーを設置。川下側からの取組を重点的に進めています。原木からハウスメーカーまでの工程が町内に整備されているのが、住田町の特徴と



森林林業日本一の町推進係長の多田裕一氏

なっていると思います」（多田裕一氏）
木質バイオマスの利用も積極的に行っています。工場から排出される残材は木質ペレットに加工し、町内の図書館や保育園、小・中学校に置かれているペレットストーブやペレットボイラーに供給されています。また、木片は工場内に設置されている木屑焚きボイラーや、隣接しているいちごハウスの暖房にも利用されています。木屑焚きボイラーは一時間に八トンの蒸気を生産していることから、工場内では発電設備にも利用されており、環境に配慮した取組ともなっています。

また、住田町では「森林環境教育」にも力を入れています。
「子供から大人まで幅広い世代の方たちに自



然と触れ合い、森林の大切さを知ってほしい
 という想いから始まった取組で、地元の方が
 『森の案内人』となる指導者養成プログラム

も行われています。保育園では『森の保育園』
 というカリキュラムがあり、宮沢賢治氏の童
 話『風の又三郎』の舞台になったことでも知

- 1：森の保育園
- 2：小学校での森林学習
- 3：中学生は間伐を体験
- 4：大人向け鑑賞会

られる種山ヶ原に季節ごとに出かけます。小
 学校では、森林学習が授業の中に組み込まれ
 ていて、森林の水源かん養機能などについて
 学びますし、中学校では森林組合等の作業員
 の方の指導のもと、間伐体験も行っています。
 大人向けには森でのウォーキングや草花の鑑
 賞会などが企画され、多くの方に参加いただ
 いています」（多田裕一氏）

これら三つの積極的な活動を総合的に網羅
 するもの、と多田裕一氏が位置づけたのがF
 SC森林認証の取組。森林認証とは、世界的
 な森林減少や劣化の問題等を背景に、民間団
 体が森林経営における環境への配慮等につい
 て独自の基準に基づき森林を認証する制度の
 ことです。

「住田町では町有林をふくむ約一万haの森林
 をFSC森林認証として環境に配慮した管理
 経営を行っています。ここで伐採された木材
 がFSCロゴマークの入った製品となって供
 給されていきます。製品にはテーブルやコー
 ナーラック、ティッシュボックス、コース
 ターなど様々なものがありますが、FSC木
 材を使用した住宅に関しては町内なら四十万
 円、町外なら二十万円の助成も行っています」

「美しい森林づくり推進会議」の参加団体と
 して、これらの取組によって生み出された利
 益を再び森林に還元し、循環型の社会を作る
 ことが住田町の願いでもあります。